



野遊びから、始まった。

「どこにもない」「欲しい」こそが付加価値。



1 スノーピーク ヘッドクォーター。背後に広大なキャンプフィールドが広がる。2 アドレスフリー（席が決まっていない）のオフィスは創造とコミュニケーションの場。
3 ものづくりのDNAが息づく焚き火台。4 キャンプという文化を提案。5 刻々と変化する自然の中にたたずむオフィス。

アウトドアという大人の楽しみ

日が暮れると、賑やかだった子供たちの声と入れ変わるようにランタンの明かりが灯り始め、薪のはぜる音や匂いがそこかしこから立ち上る。自然の中に身をおき、炎と向き合いながら静かにグラスを傾ける。

極限の自然と対峙するストイックなものとは違う、時間を楽しむ贅沢な大人の遊びとしてのアウトドアが今人気を集めています。

その牽引役ともいえるのが、株式会社スノーピーク（新潟県三条市）です。金属加工技術で日本の「ものづくり」を世界に発信する燕三条地域で誕生し、独自の技術力、製品力で全国ブランドへと発展。1990年代、日本にオートキャンプという新しい野遊びのカテゴリーを浸透させたアウトドアメーカーです。

その前身は、現社長の父が創業した金物問屋。登山を愛した創業者は市販されている登山用品に満足できず、1960年代、自らオリジナル製品を企画・開発し、全国販売を展開します。「スノーピーク」は、そこに冠したブランドでした。ユーザーの目線で「欲しいもの」を形にする「創業者の精神と行動力は、今なお同社の製品開発の根幹をなしています。社員全員がユーザーであり、その「欲しい」が凝縮された、「他のどこにもない」製品だけを世に送り出すことにこだわり、成長を続けてきたのです。

使いたい手を満足させる製品の数々には、地元の金属加工技術が生きています。燕三条には精錬、鍛造、成型、研磨など、さまざまな金属加工に携わる大小2千以上の事業所が集積。世界的な注目を集める技術や製品も少なくありません。現在、同社では象徴的存在である「焚き火台」のみを自社生産し、かつて社内で大半を製造していた約5

00アイテムは、ほぼ全面的に地場の職人、協力会社へ委託する方向に転換しました。開発は100%社内で行い、地域と連携を計ることにより、地場産業全体の技術を活用し、共に発展することを目指しているのです。

コンクリートブロックをも突き通す鍛造製のソリッドステーク（テント用ペグ）、従来の半分の薄さを実現した「燕三条極薄鋳鉄」和製ダッチオーブなど、驚異の技術が光るアイテムの数々は、「燕三条ブランド」を世界に知らしめる役割をも果たしています。

また、物品のメーカーにとどまらず、それらを活用して楽しむ体験や感動の提供者として、全国で積極的にキャンピングを展開。世界のユーザーも視野に入れながら、アウトドアをこよなく愛する人々との強固な絆を築き続けてきました。SNSを駆使し、経営トップも社員も、ユーザーにごく近い存在としてアウトドア体験を共有。ユーザーの多くが、製品への愛着やキャンプの楽しさを喜びと共に語り、自らを「信者」と称するほど熱心なファンに育っています。

本社社屋には、約5万坪のキャンプフィールドが隣接しています。自然の起伏をそのまま活用し、四季を通じてアウトドアライフを満喫できるこのフィールドを、ユーザーたちは「野遊びの聖地」と呼び、訪れる機会を楽しみにしているそうです。彼らにとってそこは「野遊び」を人生の楽しみとし、同じ価値観の仲間と分かち合う特別な場所なのです。

こだわりの道具と仲間たちとの大切な時間。スノーピークが提案するアウトドアスタイルは、まるで焚き火台で燃え上がる炎のように私たちがワクワクさせてくれます。

燕三条の地場産業との ネットワークで さらに高い付加価値へ

「スノーピークが目指すのは『ユーザーのための会社』であり続けること」と、語るのは同社の管理本部で総務課マネージャーを務める大島秀俊さん。そのために社員全員がアウトドアを愛するユーザーとして企画に参与し、顧客とつながり、営業を展開しているといいます。

ユーザーの満足度を高めることは、自らが満足する製品やサービスを提供すること。すなわち、他の「どこにもない」「自分たちが「欲しい」「高付加価値なものだけをつくること。その実現のために、地場の職人たちの技術ネットワークを構築しています。また、付加価値の高さに見合う正価で販売することにより、燕三条という地域のブランド力向上にもつなげています。



株式会社スノーピーク
 ヘッドクォーター・直営店・キャンプフィールド
 新潟県三条市中野原456
 TEL 0256-41-2500
 営業時間 9:00~19:00(年中無休)



焚き火の楽しみは永遠に

1996年の発売以来ロングセラーとなっている「焚き火台」。熱による地面へのダメージを最小限に抑え、環境に配慮しながらキャンプの大きな楽しみである焚き火ができる画期的な製品です。自らユーザーの目線を持つスノーピークの開発姿勢と、金属加工の技術が凝縮された、象徴的なアイテムの一つ。都会にもなじむ焚き火ライフを提案しています。

保証書のない永久保証

同社の製品には保証書が付きません。製品はすべて期限を定めず生涯にわたって保証し「一生もの」として購入するユーザーの信頼に応えています。経年劣化等に伴う有料修繕は年間6,000件ほど。熟練技術者によるていねいな修繕を施し、生涯使えるギアとしての信頼を確立しています。



驚異の軽さ、薄さを実現

鋳物は分厚く、重いのが当たり前。そんな常識を覆したのが「燕三条極薄鋳鉄」シリーズです。調理性能や耐久性を落とすことなく従来の2分の1まで薄くし、驚異的な軽さを実現した「和製ダッチオーブン」は、アウトドアだけでなくキッチンでも愛されているアイテム。地場伝統の鋳造技術とのコラボレーションによる挑戦でした。アイテム数も増加中。



鍛造ペグという発想

キャンパーの間で「最強ペグ」と呼ばれる「ソリッドステーキ」。鋼材を真っ赤になるまで熱して打ち鍛える「鍛造」の技術によって製造されています。また、強度を落とすことなく、コストを抑えながら、大型の製品を製造するために「摩擦溶接」という技術を採用。地元メーカーの鍛造技術で実現しています。



野遊びが地域に夢をもたらす

How to ロープワーク

アウトドアで必要なスキルのひとつがロープワーク。その数は数千種類もあるといわれていますが、キャンプなどで知っている便利な代表的な2つを紹介します。

もやい結び King of knots

過重がかかっても結び目が動かず、輪の大きさが変わらないのが特徴。汎用性の高さから結び目の王様と呼ばれています。



自在結び Taut-line hitch

ロープの長さを変えることで、テンションをかけることが可能な結び方。テントの張り綱を固定する際に使われます。



ミヤマの土壌汚染調査& 現地洗浄サービス

ミヤマでは土壌汚染対策法に基づく調査から汚染土壌の処理まで、専門スタッフが対応しています。行政対応や処理手法など、お客様の土壌汚染に関するさまざまなご相談に対し、最適な解決策をご提案します。

指定調査機関(環2003-1-264)

ご相談事例①

有害物質特定施設を廃止した土地を再利用する場合の注意点を知りたい

有害物質使用特定施設の使用を廃止する際には、土壌汚染対策法により調査が義務付けられていますが、都道府県知事に確認申請を行い、条件を満たしていれば敷地全体の調査義務が猶予されます。こうした土地の一部売却や利用方法の変更、事業施設の新築などで調査猶予中の敷地を利用する際には、注意が必要です。

- 再利用の際には行政に相談し、必要に応じて行政手続を行います。
- 利用方法の変更・工事等により、調査義務が発生する場合があります。
- 事前に土壌汚染対策の要否を確認したうえで予定を組まないと、工事完了期日に間に合わなくなる場合があります。

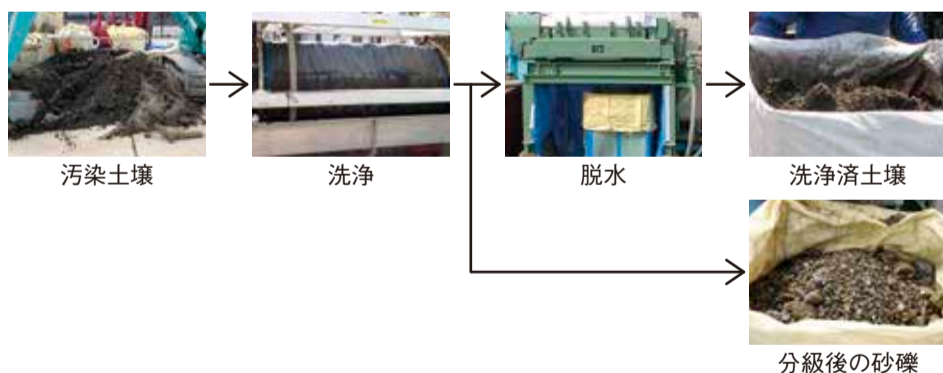
ご相談事例②

工場を稼動しながら、重金属の汚染土壌を処理したい。



ミヤマでは、自社開発した土壌中の有害物質を効果的に液中に溶出させる化学洗浄技術により、高濃度汚染土壌がスポット的に存在する敷地内での「現地洗浄」を実現します。対象となる汚染物質は、セレンや鉛、ほう素、ふっ素、六価クロム等の第二種特定有害物質。土壌搬出のない現地処理は環境負荷が少なく、搬出や埋め戻し等にかかるコストも大幅に削減できます。

■ 処理フロー



低濃度PCB廃棄物のご相談承ります。

廃電気機器等の絶縁油中に含まれる低濃度PCB分析のお問い合わせが増えています。ミヤマでは、万全な飛散防止対策を施したうえでサンプリング、分析など、安全作業でお客様のご要望にお応えします。分析後の廃電気機器の保管・管理方法や処分についてもお気軽にご相談ください。



Renewal

会社案内が新しくなりました。



ミヤマの会社案内をリニューアルしました。6つの環境事業に加え、新しい価値を「プラス」する次世代の環境技術・サービスをご紹介します。ご希望のお客様は、弊社担当営業までお問い合わせください。



2015 August-September